

## 【SS】豆まけ！

さて、今日は2月3日、節分ですね！

もちろん、行事大好きお祭りワッショイなタームがこの日を何もせずにすごすわけありませんよね？

というわけで、ゼペットさん、音頭おねがいます。

ゼ「はい、じゃあ、みんな、世の中の悪意や悲惨な事件に深い憎しみをこめて全力で豆をなげようね！」

風「就職氷河期！！」雷「借金大国！！」

風雷「「いえー——い！！！」」

いえーい！！

じゃねえだろ！

颯「テーマが重たいわッ！！」

葬「もっと気軽に楽しもうぜ、国民的行事！！」

颯火と葬屋の言うとおりですね。ラングアゲおよびニアラは普通に平和な民主主義国なんですから近代日本の抱える諸問題について頭を悩ませる必要なんてないですよ。普通に豆なげましょうよ。

ゼ「そうは言ってもね、渡る世間には鬼ばかりなんだよ、二人とも」

麗「そうそう、鬼嫁、鬼婆、鬼畜…さらに行く手をさえぎるオニギリ……」

颯「つつこまないぞ」

風「Σ！！ オニギリをたべるオトギリ！！」雷「オトギリオニギリ！！」

風雷「「いえー——い！！！」」

葬「インスピレーションうけてんじゃねーよ！！」

こいつら相変わらずですな。

琴「ていうか、世の中の悪意に対して豆投げるんだったら、お前の周りの悪言ロリショタに向かってなげればいいじゃん」

ゼ「琴樹君、キミはなんて非道いことを言うんだ…！！こんなかわいい子たちに豆を投げていたぶろうだなんて、やっぱりタームにつれてきて正解だったみたいだね…！！人間じゃないよ！！！」

琴「黙れよ変態」

珍しく声を荒げて言うゼペットさんに琴樹もドン引きです。いや、お前もリンちゃんについて話してるとき大体そ

んな感じだけど自覚ないんですかね……

麗「自分も子供みたいな身なりのくせに、小さい子達をいたぶる趣味があるんだったら蒼慈君にでも豆なげてなよー」

蒼「ええっ！？」

爆「幼児虐待は許されざる行為だぞ、頼野！！」

蒼「僕は幼児じゃないですううう！！！」

互井蒼慈14才。そろそろショタ扱いから脱却したい。

琴「そんなッ！！趣味はっ！！ないよっ！！死ね！！！」

霜「言いながらこっちに全力で豆なげてくんじゃんよコトッキー！アハハ鬼さんこちらー♪」

琴「鬼はてめえだ！！悪霊退散！！」

爆「おいこら、豆を無駄遣いするな！！」

こいつらも相変わらずですな！！

阜「で、結局誰が鬼をやるんだ？」

ゼ「鬼は自分の心の中に住んでいるからね、2チームにわけて互いに豆を投げ合ってもらおうかなって。みんな、相手の邪念がなくなることを願って豆を投げるんだよ！」だからなんとなくテーマが重い！！

爆「なるほど!!!さすがゼペットだな!!まかせろ!!!」

颯「なんだか怪我しそうでなあって気持ちの一人」

葬「は——い」

鋭「同じチームになれるといいね、鶯！」

鶯「……………、『鋭利は間違えて味方に豆なげちゃいそう』←（筆談）」

鋭「勝利の時間はえてして味の素の豆煮になりそう？」

鶯「……………ハア」

風「それではみなさん！」雷「お待ちかねー！！！」

風雷「「運命のくじ引きターーイム！！！」」

～かくかくしかじか～

結果発表—！

Aチーム：葬屋、颯火、風刃、鋭利、麗斗、阜月

Bチーム：琴樹、蒼慈（霜一）、雷人、由卯、爆、鶯

チームはアマダくじで決めたんですけど、なんか主人公二人の絆を感じますよね。

颯「さっすが俺らだよなー！葬屋！！」  
葬「神様も俺らが個々だとなんのとりえもないただの高校生だということを知っているようだな…！」  
颯「あんまそういうなよ…親友……」  
風「ウァァァァァァァァァァ！！雷人オオオオオオオ！！」雷「イヤァァァァァァァァァァ！！風刃アアアアア！！」  
風雷「「アミダくじのばかーっ！！」」  
阜「こらー！そこ！うるさいぞっ！」  
こっちは完全に別れましたけどね。  
主人公の絆>双子の絆  
解せぬ  
霜『琴樹くん、おんなじチームだね☆★』  
琴「死んで」  
霜『悪いね、死後で』  
蒼「こっ、琴樹さん一緒にがんばりま s」  
琴「ハァ？」  
蒼「ううっ……！」  
鶯「……………（なでり、）  
泣き出しそうな蒼を無言でなでる鶯。  
同じチームだと霜一に豆投げられませんもんね、琴樹。ていうかなんでお前ら一緒になるの……  
風雷「「解せぬ……」」  
颯「音斬が難しそうな言葉使った…！？」  
鋭「まあ、チームといっても、別に点数を競うわけじゃないんだからさー」  
阜「そうだと！これはあくまで豆を互いに投げ合うためのチーム分けなのだ！一喜一憂することではあるまいよ！な、鶯！」  
鶯「……………う、」  
爆「鶯！！返事ははっきり言え！失礼だろう！！」  
鶯「……………チッ」  
爆「こら！！文句があるにしてもはっきり言え！！」  
葬「鶯が舌打ちした……！？」  
阜月と別れただけでなく、苦手な爆と肩を並べるハメになって鶯君はご機嫌斜めですね。顔に出てませんが、明らか嫌そうです。  
麗「しかし、爆、こうやって相対するのも久しぶりだね？」  
爆「そうだな…、麗と久しぶりにケンカできると思うと

腕がなるぜ！！」  
麗「あははは、……氷付けにしてあげるよ」  
豆を構えて臨戦態勢の寒暖コンビ。おい、ケンカシじゃない。これは豆まきだ。いいからお前ら、これは節分だ。  
凍って雹のようになった豆と炒り豆が飛び交うのは想像に難くないですね！  
颯「ていうか、由卯ちゃん混ざって平気なのかよ？コレ絶対ガチバトルになりそうじゃん」  
確かに、一部っていうかそこかしこで戦の種がくすぶってますよね。由卯ちゃん大丈夫なんでしょうか？  
ゼ「その辺は大丈夫、由卯ちゃんすごいから、ねー？」  
由「うん！！わたしのうさぎさんつよーいから！うさたさん！うさこさん！うさみちさん！」  
由卯が呼びかけるとどこからともなく三体のウサギのぬいぐるみ。説明しよう、由卯ちゃんは名前をつけたウサギのぬいぐるみ（の中に入った悪言）を自由自在に操ることができるという、ゼペット仕込の技術をもったサラブレットなのだ！！  
まさか本編の前にこんなところで説明するはめになろうとは……  
由「そーいちくんもうさぎさんやるの！？」  
霜『やんねーよ！』  
鋭「そーいちくんつめたーいー」  
由「そーいちくんあそぼーよおー」  
霜『うっせえ！！』  
葬「なつかれてんのな」  
蒼「なんか、うさぎフォルムが気に入ってるらしくて…」  
霜『兄、超不本意』  
琴「マジザマァ！！wwwwwwww」  
霜『ハハッ、琴樹も俺になついてもいいんだぜー？』  
琴「調子乗ってんじゃねーよマジ●チゲスゲロクソ幽霊！」  
霜『さっすが琴樹！！もっと言ってっー！！！！』  
葬「ほんと不毛な関係だよな…」  
颯「もっと生産的な話できないのかよ……」  
阜「それを貴様らが言うのか？」  
いいからお前ら豆まけよ。  
ゼ「というわけで、みんな相手の中にある悪言を倒すつも

りで全力手かげんなして豆をまいてね！」  
梟「おー！！」  
風雷「「雷人（風刃）の中の悪言は俺が倒す！！」  
風雷「「Σ！！」  
風「雷人——！！」雷「風刃——！！」  
ヒシッ  
だからはやく豆まけよ！！！！  
オチがみえねえんだよ！！！！  
ぜ「はい！それじゃーせーの！鬼は一そとー！」  
  
一そして戦いの火蓋は切って落とされた  
（以下みんなの心の叫びのみでお送りします）  
爆「鬼はああああそとおおおおッ！！福はあああ  
ちいいいっ！おりやああああ!!!」  
麗「鬼の”おに”いちゃんは”OH！！に”んげんだった!?!」  
鶯「……………！……………！」  
爆「おい！！お前投げるのはこっちじゃない！！あっち  
だ！！あー！！食べ物を粗末にするなもぐむしゃ！」  
颯「こいつ……！！全部食ってやがる……！！」  
梟「おい！ちゃんとルールをまもらんk爆すごおおお  
お！？！？！」  
鶯「Σ……！？……………はあッ！！」  
爆「いてえっ！」  
琴「鬼は——そと——！リンがあああ——好き——  
——！！！！」  
葬「うぜえええええ！！！！」  
琴「キミに！！とどけ！！僕の思い！！そして消えろ！！  
変態ゴーストッ！！」  
霜『そして蒼慈に憑依する俺っ！』  
蒼「痛っ！？だから投げるのはむこうですt t痛あっ！？  
いたっ！！やめっ！ことkっ！協調性——！！！！」  
颯「各所で熱く豆まきが行われすぎて行き場を失うなう…  
…」  
風「雷人雷人！！いくよ！それっ！」雷「(ばくっ) せい  
こーう！！じゃあこっちからもいくよ！それー！」  
颯「そして手前ら何やってんだよ！！」  
風「お豆おいしいよ！！」雷「颯火も食べなよ！」  
風雷「「もぐもぐな——う！！」」

颯「豆まいて——！！！！たべないで——！！」  
由「おにわーそとおーふくわーうち——！」  
鋭「トミカ蕎麦？ひつまぶし？？？」  
由「ちがうよお！おにはそと！ふくはうちだよ！」  
鋭「オムライス…？？めったうち……？？おいしいの…  
…！？」  
由「もー！！えりのおに、でてけー！」  
鋭「うわっ、もーいたいよー由卯ちゃんー」  
葬「俺ら完全にとりのこされてね……？」  
颯「よし、ここは順当に世の中のあれこれにたいして憎し  
みをもってまめを投げようぜ」  
葬「受験戦争は爆発しろ——！！」  
颯「リア充爆発しろ——！！」  
葬「スプロール現象——！！」  
颯「南北問題——！！！！」  
葬「リーマンショックー！！」  
颯「サブプライムローンー!!」  
梟「なんだ！？なんか強そうな言葉だな……！ていうか、  
今回私ほとんどしゃべってないな！？由々しき事態  
だ！！」  
麗「胸だけじゃなくて、影も薄いんだね、梟月ちゃん！」  
梟「うにやあああああああ!!!!」  
鶯「……………おには……そと……ッ！！！！」  
麗「いたあ！？ちょっ!?鶯くん！冗談だっ！いたあ  
っ！」  
爆「こらああ!人に向かって豆をなげるな——！」  
琴「リン結婚して——！！」  
葬「少子高齢化——！！！！」  
颯「消費税増額フラグ——！！！！」  
葬「金じゃなくて豆をまけ日本！！」  
颯「日本ってどこだよ」  
葬「…、さあ……？」  
風雷「「そんなことよりお豆食べようぜ！！」  
颯葬「「いいからとにかくお豆まこうぜ！！」」

と、その後二時間はドンチャン騒ぎで豆をまきつづけてい  
たようですが、オチが見えないのでこの辺で。  
ちなみに、使用された豆はすべて、その日の夕飯の五目御

飯に混ぜられておいしくいただけたとさ。

めでたいめでたい (頭g)